会報 なかさと
E-mail nakasatokouryusenta@net1.jway.ne.jp

中里学区コミュニティ推進会
発行責任者　石川　諒一
編集事務局　皆川　汪
ＴＥＬ　0294-70-8005

中里学区人口　R6.4・1現在
世帯数　４１１
総人口　９２０
男 430　女 490

コミュニティ総会の様子

本総会の開催に当たり多くの来賓の方々から熱いお言葉を承りましたので紹介いたします。日立市役所からは教育委員会教育部長である宮内雅弘様が小川日立市長の代理として登壇され、中里地区について地域と学校が一体となって行事を進めていることは素晴らしいとのお褒めの言葉を頂きまた昨年の豪雨災害をきっかけに災害に強い街づくりや街コインの導入等官民一体となってデジタル化による持続可能な街づくりを目指すという旨が語られました。西部支所長の渡邊浩二様からは防災・福祉に住民の協力が多大な力になっており感謝の念を述べられました。今月より赴任した荒蒔克一郎中里小中学校校長からは「故郷中里を愛し夢を実現しよう」という力強いメッセージを賜り、東河内駐在所の田山敦様からは令和６年度の防犯も引き続きのご協力をお願いしますとのことで、関根裕幸中里郵便局局長からは配達部署が町屋郵便局に変更になるが通常業務は引き続き行っていくという話をされました。

ＭＬＢ ドジャース 大谷翔平さんから グローブ送られる

中里小中学校にもグローブ届いたよ

中里小中学校新入生を迎えました

朝から季節外れの大雨に見舞われましたが、桜の開花は新入生たちの入学を待っていたように予報より遅れ、満開で４月９日(火)入学式が行われ、中里小中学校にも新たな８名の元気な児童たちが入学しました。

倉繁涼子ＰＴＡ会長は入学式では、「アンパンマン」「ドラえもん」のお話と、荒蒔校長先生から「お友達を大事にして仲よくしよう」とのお話があり融和な雰囲気で子供たちも元気に返事ができた印象的な入学式でした。

石川諒一コミュニティ会長は、令和６年の基本方針で述べているが、児童・生徒数も毎年順調に伸びており、今年度は75名でとなり最終定員の90名まで期待し、中里特有の自然とのふれあい、地域住民との交流を通じ元気で明るく児童・生徒たち通う学校となるようコミュニティ活動を通じ協力していきたい。と話していました。

今日も子供達の元気な声が校舎に弾んでいます。

満開の桜と新校舎に元気な新入生８名を迎えました

年生	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
名	8	6	5	4	8	8	11	12	13	75

令和6年　中里小中学校の児童・生徒数

令和６年コミュニティ総会を開催

令和６年４月27日（土）において、日立市教育委員会教育部部長宮内雅弘様、西部支所長渡邊浩二様、中里小中学校校長荒蒔克一郎様、東河内駐在所田山敦様、中里郵便局長関根佑幸様、多数のご臨席を賜り開催いたしました。コロナ感染症も現在下げ止まり継続中で、新旧推進員の皆様にも参加いただき盛大に開催できました。総会では、石川会長より令和５年度の総括及び令和６年度の基本方針が示された。

令和６年度 基本活動方針

コロナ感染症に関しては、昨年５月８日からインフルエンザ管理並みの行動制限のない５類に移行して管理してきましたが、４月からは利用者の検温、出入り口の表示、アクリル板の設置を終了することにします。

中里学区の皆様には、これからも日立市からの広報を中心とした感染防止対策やワクチン接種情報に取り組んで頂きたいと思います。新型コロナウィルスワクチンの接種は、６年度も実施されますが、年齢、基礎疾患のある方、医療機関・高齢者施設従事者によって接種スケジュールが異なりますので指示に従ってください。

日立市は民生委員児童委員の年齢要件について令和６年度から県の改正に合わせて、新任・再任の地区担当委員と再任の主任児童委員の年齢要件について、現行の「満75歳未満」から「80歳未満」へ、新任の児童委員については現行の「満55歳未満」から「満65歳未満」へ改正します。

日立市は産業廃棄物処分場の整備に伴い山側道路と県道３７号を結ぶ新たな県道を新設します。

コミュニティ活動は市民生活に不可欠のものでありますが、最近コミュニティに参加しない人やコミュニティの内容を理解していない人が増えているため「コミュニティの活動宣言」と「コミュニティの活動指針」が制定されました。

特に今年は新しい形の体育祭、ふれあい祭り、どんど火祭りに代わる正月行事などを開催計画しておりますので皆様のご協力をお願いします。

コミュニティの基本的指針としては、急速に進行する少子高齢化を常に念頭において、各専門部の事業及び行事の内容については中里の現状を踏まえ、中里学区にあう手法で進めていくことが大切です。

そのためには、コミュニティ活動を広く理解していただくための情報発信が大切であり、回覧板情報、広報誌の充実、Ｊ―ＷＡＹ、ＦＭひたちの活用、ホームページの充実に努めてまいります。

コミュニティ活動の主体は中里学区住民の方々ですから、地域の人たちが連帯意識を高め、協働しながら、地域総ぐるみで事業や行事を実践していただき、諸問題についても対応を図っていく必要があります。

少子化対策として１２年前から日立市内から中里小中学校への転入できる特任校制度を採用しました。昨年４月からスクールバスが２台になり通学範囲が拡大されました。児童・生徒の安定確保を図っていく必要があります。４２名（Ｒ３年度）５５名（４年度）６５名（５年度）７５名（今年度）と着実に増加傾向にあり、９０名の定員一杯になることを期待しております。

消防分団や中里駐在所の皆様のご支援ご協力を頂きながら災害・事故・犯罪防止を図ってまいります。コミュニティの主活動は、従来からの継続事業や行事の推進であり日常的な活動が大切であり、それに加えて今年度は下記項目を重点テーマに取り組んでまいります。

（１）中里学区の人口構成(令和６年１．１現在
（２）日立市の各種お知らせ
（３）健康つくり推進
（４）防災関係
（５）公共交通
（６）学校関係の情報
（７）その他多関連情報）
・果樹農園サポータ募集
・交流センター利用案内
・ひたちシーサイドマラソン
・大相撲日立場所　等

中里フルーツ塾開講

ブランド存続の危機！

中里の里川に沿った西上淵・岡町地区には、現在18戸のリンゴ・ブドウの果樹栽培農家があり、近年では中里産リンゴ・ブドウが中里ブランドとして日立市の地域ブランド認定品となっている。中里地区でリンゴ・ブドウの栽培が始まったのが約35年前の平成2年頃で日立市の調査によると、高齢化を背景に近年は離農者が増加。また現栽培農家の7割が後継者不在という状況でこのままではブランド並びにフルーツ園存続の危機的状況になることから担い手育成のためフルーツ塾を開講し中里のブランド・果樹産業維持に乗り出すことにした。

担い手育成のためのフルーツ塾開講

塾は今年3月下旬に開設し、里川西特産果樹生産部会（武藤隆之会長）と中里ブドウ生産部会（與澤竜一会長）が運営し、来年3月まで約40日間程度の研修を行い、部会員の実農場での実習、専門農業改良普及センター（県・農林水産課派遣技師）による講習を通じ栽培技術の習得を行う。中里地区内で就農する意思があることを条件に毎年2名ほど募集し、日立市からは塾生が卒業後に果樹農家として独立できるよう、中里地区の果樹園の確保にも協力していただける。現在2名の塾講補生は既に内定しており3月末から育成が始められ中里ブランドの存続が期待できる。

投稿協力　里川西果樹生産部会　会長　武藤隆之氏

ＪＡＸＡ（つくば宇宙センター）見学会に参加

投稿　中深荻町　會澤　俊子

令和6年、3月15日。コロナ禍を経て5年ぶりの開催となった生涯学習講座研修、行先はつくば市にあるＪＡＸＡ。久しぶりの企画開催に申込者が殺到し35名定員を上回る45名が参加した。初めて訪れるＪＡＸＡと久々のバス旅行に期待が膨らむ。バスの中では自称(!)18歳のバスガイドさん。初めは初々しい感じもしたが、徐々に熱がこもってくるとポロっと昔の話が出たりして巧みな話術以上に皆を引き込ませて笑いを誘うあたり、経験の豊かさを感じる。10時前に到着し、まず白にオレンジ色の鮮やかなＨ2ロケットがお出迎え。直径4ｍ、全長50ｍ(7階建てのビル位)の大きさだが、横になっているせいかテレビで見る打ち上げ時の迫力はない。

だがしかし、このＨ2ロケットが1994年に完成したことで日本のロケット開発技術は世界の主要ロケットに肩を並べる能力と性能を確立させることになった。いわば立役者である。最初に「スペースドーム」展示館に入る。中に入ると正面に地球の北半球の大きさの100分の1のモニュメントがあり、コバルトブルーの鮮やかな海の色に目が釘付けになる。地表面近くを飛行する衛星や宇宙ステーション等の位置がリアルに把握できる。地球の地上100㎞上空が「宇宙」と定義される由は一般の飛行機等が10㎞までの高さを飛ぶのでその10倍以上の高さであること。なるほど「宇宙」はここから始まるのかと漠然とした「宇宙」が少しだけ具体的になる。奥には「ゆり」「こだま」「だい地」等歴代のロケットや衛星が展示され国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の中にも入ることができる。この中で宇宙飛行士が様々な事を行っている画面が目に浮かぶ。ロケット、衛星、宇宙開発の技術は私達の日々の生活をより豊かに進歩させてくれる。これほど科学技術の粋を極めた宇宙開発だが意外な一面がある事を解説員に教えてもらう。宇宙空間での衛星は太陽が当たる面は130℃陰になる面はマイナス130℃と非常に温度差が激しいので機体を守るために「サーマルブランケット」という断熱材のシートを貼っている。一見したところペラペラの金色のアルミホイルにしか見えないが中は何層にもなっている。このシートを壁面に貼るのに使うのはなんとマジックテープだという。宇宙では空気の摩擦がないので問題はないらしいがまさか衛星の壁面にマジックテープ!!身の回りにある物が宇宙空間で使われているとは・・親近感が湧くというものだ。もう一つ、ロケットを打ち上げる宇宙センターはなぜ種子島にあるのか？打ち上げ場所が赤道に近ければ近いほど多くのエネルギーを必要とする軌道傾斜角度が小さくなり、赤道上空の静止軌道に移しやすいのだという。なるべく赤道に近く、東側が開けている場所がその当時は種子島だったという訳だ。これ以上の難しい事はわからないが衛星などの活躍によって「宇宙を使う、未来を作る」というこの展示館のキャッチフレーズが具現化されていくのだと実感した。どうか地球に生きる人類の未来が希望の持てるものになってほしいと願うばかりだ。最後に、このような貴重な機会を設けて下さった中里交流センターの皆様に感謝いたします。

令和6年度学校人事

今年度の学校人事は下記のとおりです。

転出者が4名退職者が2名で、新規採用の先生を含め新たに7名の転入です。

中里小中学校は、日立市でも評判が良く毎年児童・生徒増が継続しております。

令和6年4月1日

保護者様

日立市立中里小中学校長　荒澤　克一郎

教職員の定期異動について（お知らせ）

早春の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「このたびの定期異動により、下記のとおり転出・転入等がございました。令和5年度も子どもたち一人一人の学びの充実に向け、職員一同精一杯取り組む所存ですので、これまで同様、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

1　退職者
　木村　一司　（第6学年担任）
　増田　容子　（後期保健室養護教諭）

2　転出者
　宮川　渉　（校長）　日立市立宮田小学校へ
　澤田　英樹　（第7学年担任）　北茨城市立関本中学校へ
　中村　美穂子　（第9学年担任）　日立市立駒王中学校へ
　五島　真衣　（第3学年第4学年担任）　水戸市立赤塚小学校へ
　※（　）令和5年度の担当

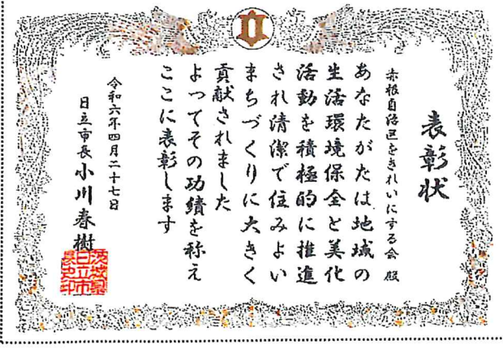
3　転入者
　荒澤　克一郎　（校長）　日立市立助川小学校より
　越子　慎子　日立市立大久保中学校より
　鈴木　琢朝　日立市立河原子中学校より
　早山　大河　新規採用、日立市立仲町小学校より
　愛場　瑞太　新規採用
　大内　春香　新規採用
　横浜田　渉　初任者指導教諭、日立市立助川小学校より

以上

（問合せ先）
中里小中教頭　園野・荒川
℡ 0294-59-0344

環境美化活動により表彰される

4月27日（土）中里学区コミュニティ推進会の総会において表彰され、中深荻町の小野節子さんが代表で受けました。（清掃功労賞）



表彰状

赤根自治区をきれいにする会　殿

あなたがたは地域の生活環境保全と美化活動を積極的に推進され清潔で住みよいまちづくりに大きく貢献されましたよってその功績を称えここに表彰します

令和六年四月二十七日

日立市長　小川春樹